

あいち農産物生産流通レポート

平成24年6月号

情報サロン		
・ブドウ「シャインマスカット」の栽培マニュアルを作成 (農業総合試験場)		1
地域トピックス		
・八名丸コロッケをご賞味ください (新城設楽農林水産事務所)		3
東日本情報		
・「青果物健康推進協会設立10周年記念シンポジウム」 が開催されました。 (東京事務所)		4
西日本情報		
・園芸施設の夏期高温対策技術を開発 ～暑い夏でも施設内温度を4～7℃低下できます!～ (農業総合試験場)		6
フラワーページ		
・愛知県における花育の取組について (園芸農産課)		8
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)		10
・名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し		11
花 き		
・切花・鉢花の6月の見通し(県内市場)		23
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2012年3月)		27
関連指数		28

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6421

ブドウ「シャインマスカット」の栽培マニュアルを作成

農業総合試験場

1. はじめに

ブドウ「シャインマスカット」は(独)農研機構・果樹研究所が育成し、平成18年に品種登録された新品種です。マスカット風味があり、糖度も高く、食味が非常によいことから、全国で栽培が急増しており、一昨年頃から県内でも流通し始めています。本県でも直売農家を中心に導入が進み、本年度から出荷量が増加する見込みです。愛知県産は後発となったこともあり、他県産に負けない優れた品質の果実を供給することが重要です。そこで、愛知県農業総合試験場では、本県における栽培技術の高位平準化を図るため、これまでの試験結果をもとに、基本的な栽培管理方法をまとめた愛知県版「シャインマスカット」栽培マニュアルを作成しました。

2. 栽培マニュアルの概要

「シャインマスカット」は、種なし栽培の方が着果が安定し、果粒が大きく房の形の良い果実が生産できるため、マニュアルでは種なし栽培を中心にまとめてあります。

(1) 大粒の「シャインマスカット」をつくる

近年、種なしとともに、大粒のぶどうに対する人気も高まっています。「シャインマスカット」の栽培では、やや強めの新梢に着果させ、摘心などの新梢管理を行います。また、種なし果実を生産するため、ジベレリンなどの植物成長調整剤を適切に使用することで、1粒12g以上の果実生産を目指します。ただし、「シャインマスカット」はもともと樹勢が強く、特に幼木期は枝の伸びが旺盛で果粒が大きくなりません。幼木期にはできるだけ早期に樹を拡大し、樹勢を落ち着かせることが重要です。



写真 シャインマスカットの果房

左2房: 3年生樹の果房

右2房: 14年生樹の果房

同じ栽培管理でも、3年生樹の方が、果粒が小さい。

(2) おいしい「シャインマスカット」をつくる

「シャインマスカット」は甘みの強さが味の特徴になっています。1房の大きさが大きいと、粒による糖度のばらつきが大きくなるため、1房500g程度の大きさが適当です。このためには開花時に、先端部分3cmを残して花穂を整形し、結実後に1房あたり40粒程度に仕上げます。また、たくさん着果させ、樹にかかる負担が大きくなると、果実糖度が低くなる傾向があります。500gの房を1㎡当たり3房に制限し、10a当たり換算の着果量を、1,500kg程度にすることで、糖度18度以上の果実ができます。葉の繁り具合との関係も深く、せん定や発芽後の芽かき作業で、1㎡当たり7本程度の新梢を残し、収穫直前に「巨峰」「ピオーネ」などと比べ、やや葉が多めに繁った状態にするのが適当です。

八名丸コロッケをご賞味ください

新城市名産の愛知の伝統野菜「八名丸さといも」を使った『八名丸コロッケ』が愛知東農業協同組合「八名丸里芋部会」で商品開発されました。

「八名丸さといも」は肉質が柔らかく、甘みと強い粘り気があるのが特徴で、子いも・孫いもが青果物として流通し、多くの消費者に親しまれ今日に至っていますが、親いもは子いもや孫いもに比べて食感が硬く、あまり流通していませんでした。

「八名丸さといも」の親イモの有効利用と、「八名丸さといも」のブランド力の向上と周年を通じて供給できる新たな加工品の開発にとり組みました。

この度、開発された「八名丸コロッケ」は、誰にでも親しんでいただけるように、「おやつ」として、また「惣菜」としても食べやすい味付けにしています。

特徴

一般的なジャガイモのコロッケとの違いは、ジャガイモの「ホクホクとした食感」に対し、さといもの特徴である「柔らかい食感」を持った一味違うコロッケに仕上がっております。

ぜひとも、新城市の新名物「八名丸コロッケ」をご賞味ください。

なお、お買い求めは次の店舗にて、一つ90円で販売しています。

販売店舗

- ・ Aコープしんしろ店
新城市平井字中田 6 - 1
- ・ グリーンセンターしんしろ内
野菜の台所『食舞館』
新城市豊栄鳥居前 2 2 1 - 1



八名丸コロッケ



八名丸さといも

「青果物健康推進協会設立10周年記念シンポジウム」 が開催されました。

去る5月24日(木)、東京都中央卸売市場大田市場業務棟大ホールにて 特定非営利活動法人「青果物健康推進協会」の設立10周年を記念して、これまでの活動報告と研究発表を兼ねたシンポジウムが開催されましたので紹介します。

講演には、市場関係者、スーパー担当者、産地駐在員、種苗会社など約120人が集まりました。内容としては、

「野菜・果物がヒトにどう効くのか?」とのお題に対して、林先生から、トマトのダイエット効果と称して、今年2月に大学教授より報告があったのを覚えているかとの問いかけがあり、大学教授は、やせるとは一度も言っていない。「中性脂肪を燃やす効果があり、脂肪肝の改善なる。」との発言が消費者側では、ストレートに痩せる効果があると伝わっているとし、林先生は、「こういった効果を伝えるニュースは新事実だけのニュース性を報道されやすい。他にも青果物の機能性において証明されている素晴らしい点は多くあるが繰り返しては報道してくれない。青果物の機能性の信用度についても、人で効果を証明したものの特保などを取っているものは客観的にその効果を期待できるが、動物実験の段階や、一定の人の体験談などだけでは疑わしいものが多いのではないかと。いずれにしても特定の成分、品目だけで機能的な健康効果を期待するのではなく多くの青果物をバランス良く摂取することをお勧めする。」とのことでした。

<開催概要>

日時 : 平成24年5月24日(木)16:00

会場 : 大田市場 事務棟2階 講堂

内容 : 「野菜・果物がヒトにどう効くのか?」
「青果物消費拡大(販売促進)のヒント」

シンポジスト : 林 美美(医学博士・米国登録栄養士)

宮島則子(学習院女子大学講師)

長谷川理恵(VFT・モデル)

金栗 渚(JA 熊本経済連)

コーディネーター : 近藤卓志(青果物健康推進協会事務局長)

「青果物消費拡大(販売促進)のヒント」では、まず、学習院大学の宮島先生から、東京の荒川区立汐入小学校で管理栄養士をしていた時の活動「白菜わっしょい!」が紹介されました。

その内容としては、2010年の夏、白菜の価格下落で、産地が困っている時、青果物健康推進協会の近藤事務局長から、「長野県八ヶ岳の高原白菜を学校給食で使用していただろうか?」とそれを聞いた宮島先生は、「いただけるのであれば、ありがたくちょうだいいたします。」と即答し、全農との連携による「白菜わっしょい!」のプロジェクトが発進したとのことでした。

給食用の80kgと児童1人に1個の白菜(計810個)が届けられることになり、まず、給食の献立を連続3日間の白菜メニューに変更、夏のこの時期に連続3日間の白菜メニューははじめての経験だったそうです。さらに白菜を1人1個ずつ持ち帰らせる「白菜わっしょい!」を行い、1・2年生は、白菜を持ち帰るのは危険という判断により、保護者に取りに、3年生以上の児童が大きな袋に入った白菜を抱えて下校し、みんな笑顔だったそうです。「学校で白菜を無料配布する」という前代未聞の取組みはこの地域全体が3~7日間ほとんどすべての家庭で白菜を食べるという学校・家庭・地域が一体になって取り組

んだすばらしい食育活動となったとのことでした。一人でも多くの人に新鮮白菜をおいしく食べてもらい、生産者のみなさんによるこんでほしいという思いがギッシリ詰まった「白菜わっしょい！」となったそうです。今後、国産の新鮮野菜がムダにならないように、農協・生産者と学校給食が連携して、余剰農産物を活用できるようなシステムをつくることが課題だと強く感じたとのことでした。

続いて、全国で実施する食育活動の推進役であるベジフルティーチャー（VFT）の各分野へ向けた活動の事例紹介が行われました。

（１）企業を対象とした食育プログラムの実施

企業での特定保険指導を行っている健康保険組合と連携し、従業員の健康管理を目的とした食生活改善のための研修会等の食育啓発活動の実施。

事例として、ある企業の健康保険組合での取組内容が紹介されました。

グループワークによる食生活改善セミナー

電子レンジ等で簡単にできる野菜料理等の調理でのセミナー

事業所間をネットでつないでの食事バランス等に関するセミナー

セミナー参加者へのメールマガジン配信（セミナーの復習等）

セミナー参加者の「野菜マスター」受検への誘導

以上の取組の結果、参加者の食生活を見直す意識が高まったというアンケート結果が得られたとのことでした。

（２）子どもを対象にした食育活動の実施

児童が、食事バランスやごはんなど主食の大切さ、カルシウム摂取の重要性を理解し、実践度が高まることを目的にカリキュラムを開発し、小学校における食育出前事業を実施。（平成23年度：全国11都道府県14校で実施）

実施内容として、「地元の野菜を知って、野菜博士になろう」をテーマに授業を担当の先生とベジフルティーチャーと共同で実施されました。

旬の地元野菜を食べることのメリット、食事バランスガイドに沿ってのベジフルティーチャーが説明。

グループワークで、野菜カードを使ってゲーム感覚で副菜摂取の考え方を学んだ。

事前に地元野菜や郷土料理についての宿題を実施した。

以上の取組結果としては、児童が「栄養のバランスを考えるようになった」「野菜に対しての会話が増えた」「残食率が減った」等の効果があったとのことでした。

（３）量販店等の青果物販売担当者を対象とした取組の実施

メロンの熟度の見分け方等青果物に対する基礎知識を学ぶことによるお客様とのコミュニケーション力アップや、販売場面での効果的なポップの作成方法などをグループワークを通じて実施、パートやアルバイトの人にも参加してもらい即、現場で活かすことができたとのことでした。

最後に近藤事務局長が、紹介した3つの取組は消費拡大をめざしたサイドからの取組であるが、産地サイドによる販売促進の取組ともニアイコールであるので今後とも産地とより連携しての取組が重要であると締めくくって終了しました。

園芸施設の夏期高温対策技術を開発

～暑い夏でも施設内温度を4～7 低下できます！～

1 開発の背景・ニーズ

夏期昼間の温室は換気を行っても40 を超え、作物の生育開花に大きなダメージを与えることから、その対策が強く求められていました。そこで、超微粒ミストを中心に夜冷や不織布ポットの根圏冷却などとの組み合わせ技術の開発に取り組みました。

超微粒ミストは噴霧する水滴が十数ミクロンと従来の細霧冷房より微小で瞬時に蒸発し、その気化熱を利用して超省エネルギーで室温の降下が可能です。代表的なものとして愛知万博で紹介されたドライミストがあります。

2 成果の内容

(1) バラでの超微粒ミストと夜冷の組み合わせ

遮光しないガラス温室でも超微粒ミストによって昼温が平均4～5 下がり、葉温も4 程度下げることができます(図1)。超微粒ミストの降温・加湿の作用で、無遮光でも花弁焼け・葉焼けを防止できます。遮光するとさらに2 ほど降下しますが、光量も減ります。超微粒ミストと夜冷の組み合わせでは、遮光処理区より、無遮光区でバラの品質も良く、夏秋期収量で54%増収しました(表1)。超微粒ミストと組み合わせる夜冷の温度は、慣行(20)よりも高い23 が良く、電気使用量は慣行よりも約3 割削減できます。超微粒ミストと夜冷(23)の組み合わせでの給液濃度は、冬期と同様のEC 1.4dS・m⁻¹で充分です。

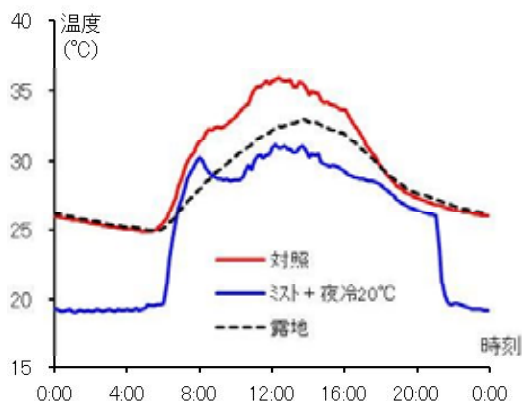


図1 無遮光ガラス室での超微粒ミスト降温効果

(平成22年7月7日～9月13日の時刻別平均気温)

表1 超微粒ミストと夜冷の組み合わせにおける外部遮光がローテローゼ切り花の収量・品質に及ぼす影響(平成23年)

開花期	外部遮光	収量(本/株)	切り花重(g)	切り花長(cm)	花高(mm)
1番花(8/7まで)	有	2.0	27.1	60.3	40.8
	無	2.9	31.0	62.3	43.3
有意性			NS ²	NS	NS
2番花(9/12まで)	有	2.1	27.3	72.5	42.5
	無	3.0	30.7	68.7	43.0
有意性			*	*	NS
3番花(11/7まで)	有	2.0	37.3	79.6	47.1
	無	3.5	36.8	76.0	48.8
有意性			NS	NS	*

² NSは有意差なし *は5%水準で有意差あり

(2) 花壇苗での超微粒ミストと不織布ポットの組み合わせ

超微粒ミストにより苗の生育や開花が促進され、ポリ乳酸製不織布ポットの根圏冷却効果を組み合わせると出荷期がさらに前進します。また苗の出荷率や品質向上に効果があります（表2）。栽培ベンチ付近のみの噴霧でも、温室全体に噴霧する場合と同様に気温は平均2～4ほど低下します。ポインセチアでは、高温による奇形葉の発生や生育阻害が回避でき、品質維持・向上による販売単価の確保が期待できます。

表2 パンジー、プリムラの開花率及び出荷適期鉢率（平成22年）

試験区		パンジー		プリムラ	
ミスト噴霧	ポットの種類	開花率	出荷適期鉢率	開花率	出荷適期鉢率
有	不織布	100%	100%	67%	67%
有	黒ポリ	100%	67%	42%	42%
無	不織布	88%	39%	17%	8%
無	黒ポリ	25%	0%	0%	0%

注1)出荷適期鉢率は、調査日に出荷規格(草丈・株幅10cm以上で開花株)に適合していた株の割合。

注2)パンジーは定植8/13、調査10/1。プリムラは定植9/9、調査11/12。

(3) トマトでのスポット夜冷育苗と超微粒ミストの組み合わせ

超微粒ミストを噴霧した稼働時間帯の平均気温は慣行よりも5以上、細霧より2～3低下します。超微粒ミストの噴霧によりトマトの草勢は強まり、果実の裂果が減少するため、可販果収量は慣行区より増加します。組み合わせ技術として開発したスポット夜冷育苗システムを利用して育成した夜冷苗は、慣行苗より第一果房着生位置が1.1節低下し(表3)、11月までの初期収量が1割増加します。夜冷育苗・超微粒ミスト・地温抑制効果が高いマルチの組み合わせで、年内可販果収量は慣行に比べて50%程度の増収を達成できます。名古屋市中心卸売市場における9月～10月の5年平均単価は384円/kg、11月～12月は335円/kgと高く、これらの時期の収量が増えることから、一層の増益が期待できます。



写真1 超微粒ミスト噴霧状況

表3 スポット夜冷育苗システムによる夜冷処理がトマト第1果房着生位置に及ぼす影響（平成23年）

試験区	第一果房着生位置 節
夜冷25日処理区	9.8
夜冷30日処理区	9.9
夜冷35日処理区	10.2
慣行育苗区	10.9



愛知県における花育の取組について

「花育」とは、幼児、・児童の成長期において、花と緑に親しみ、育てる機会を提供し、やさしさや美しさを感じる情操面の向上を図ることです。また、花や緑を介して地域のつながりを深めるなど、花を教育、地域活動に取り入れる取組について言われています。

(財団法人日本花普及センター「花育活動推進方策」より)

愛知県では、愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県経済農業協同組合連合会とともに、花の王国あいち推進事業実行委員会を形成し、花育活動を推進しています。

1 地域における花育教室の実施

花き生産者、流通関係者、NFD（日本フラワーデザイナー協会）等が小中学校に出向き、花の栽培や流通についての説明やフラワーアレンジメント教室や寄せ植え教室等を開催して花に親しむ機会をつくっています。

2 花に込めたメッセージ募集

花を贈る時に相手に伝えたいメッセージを県民から募集しています。日頃の感謝の気持ちや、お世話になった方にお礼を伝えるメッセージなど、多くの方に花への興味や関心を持っていただきました。

【平成 23 年度実績】

平成 23 年 7 月 1 日～8 月 31 日まで募集

家族や友人にあてたメッセージ 862 点

東日本大震災の被災地にあてたメッセージ 869 点



「頑張ればいつか花が咲く。」どこかいつもネガティブな幼い私にお母さんが言った言葉。今も心の中で私を強く支えています。ありがとう。

応募があったメッセージ

3 あいちキッズ・フラワー・フェスタ2011

花とふれあうことで、子供達の優しい心を育て、花に親しむ習慣づくりを推進する花育を目的として、平成23年9月23日、愛知豊明花き地方卸売市場で「あいちキッズ・フラワー・フェスタ2011」を開催しました。子供58人を含む101人が参加し、寄せ植えや模擬せり等を体験し、花に親しんでいただきました。



寄せ植え、模擬せり

4 その他

愛知県では、農林水産省が「花育」を呼びかける以前より、小中学校の花壇コンクール「フラワー・ブラボー・コンクール」を実施し「花育」に取り組んでいます。

【平成24年度実績】県内149校が参加

また、平成24年度は、花育指導者と地域の小中学校や団体等の窓口となるような仕組み「仮称：花育ティーチャー制度」作りをしていきます。

【お願い】

地域で花育教室を開催される場合は園芸農産課花きグループまで情報提供してください。

愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋市中央卸売市場（品目：おおば）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円 / kg)		前年の主な他産地 (上位 3 産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
2 3 年実績	1 8 . 1	1 6 . 2 (9 0 %)	2 4 6 4	2 4 6 4	大分 (5 %) 高知 (4 %)
2 4 年見通し	1 7	-	2 4 0 0	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>主な産地は豊橋。天候は、年度当初は低温だったが、回復傾向にあり温度は上昇してくる見込み。生育は順調で、問題のある産地は無い。夏場の温度により生育が左右されるので注意が必要。震災の影響が薄れ単価が下がる見込み。 入荷量は前年よりやや下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>			<p>生産者の高齢化が進んでいる。若い生産者は他品目に転向する傾向にある。手間がかかる品目なので、若い生産者はやりたがらない。若い生産者の増加を望む。 若年層ほどおおばを食べる習慣がないので、消費量を増やすためには、おおばの若年層の食文化への浸透が必要。</p>		

東京都中央卸売市場（品目：ハウスみかん）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円 / kg)		前年の主な他産地 (上位 3 産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
2 3 年実績	6 2 1	9 2 (15 %)	9 6 4	1 , 0 5 1	佐 賀 (66 %) 愛 知 (15 %) 大 分 (8 %)
2 4 年見通し	5 7 0	-	1 , 0 1 0	-	
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>佐賀を中心に愛知、大分から8割の入荷を占める。引き続きハウスみかんの加温面積は減少傾向。ブドウ類の入荷が少なく、ハウスみかんの引き合いが強い。佐賀は平年比2～3日の遅れ。6月20日過ぎから入荷が一気に増える見込み。大分は平年並みのペースで入荷があり、6月末がピーク。愛知はほぼ計画通りだが、やや色つきが遅れている。 入荷量は前年比5～10%減少、価格はやや上回る見込み。</p>			<p>ハウスみかんは5月から7月にかけてのギフト商材としての引き合いが強い。 愛知産は、どの産地よりも食味が良く、品質管理もしっかりしており、果物専門店や量販店などからの信頼が高いだけに評価も厳しい。出荷にあたっては特に浮皮や着色などに注意して選果して欲しい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し

名古屋中央卸売市場

5月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	19年	37,066	183	185	179	187	愛知 25%
	20年	32,995	222	218	228	219	長野 15%
	21年	35,947	205	209	210	194	茨城 8%
	22年	33,692	225	243	223	206	長崎 6%
	23年	32,261	228	229	222	223	
	5カ年平均	34,392	213	-	-	-	
	24年見通し	32,400	229	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は地元の愛知、長野、茨城が中心。低温の傾向により、全体に小玉傾向。低温は6月中には回復してくる見込み。入荷量、価格ともに前年並みの見込み。							
だいこん	19年	2,347	86	85	92	83	青森 62%
	20年	2,208	77	81	79	73	愛知 25%
	21年	2,196	77	70	85	75	北海道 10%
	22年	1,867	92	86	91	99	鹿児島 1%
	23年	1,830	86	77	81	107	
	5カ年平均	2,090	83	80	86	86	
	24年見通し	1,600	130	110	120	150	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は青森、愛知が中心。気温は低温で、これにより小玉傾向。この傾向は6月まで続くかもしれない。雪により青森や北海道からの入荷が少ない。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	19年	1,856	187	179	198	187	岐阜 39%
	20年	1,827	116	118	110	121	徳島 25%
	21年	1,543	204	189	210	219	北海道 9%
	22年	1,635	135	115	150	143	愛知 7%
	23年	1,614	136	125	141	150	
	5カ年平均	1,695	155	145	161	163	
	24年見通し	1,500	160	140	160	180	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は岐阜、徳島が中心。徳島はLサイズ中心で、2Lは少ない。6月上旬に終わりを迎える。岐阜は、作地面積が減少し、入荷量が減少する見込み。いずれも低温により入荷量減少。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

5月25日現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	19年	133,725	197	196	201	千葉 18%	
	20年	127,808	238	242	238	茨城 15%	
	21年	134,861	224	229	221	長野 9%	
	22年	130,336	232	225	214	群馬 7%	
	23年	126,782	233	229	237	(愛知産比率 2%)	
	5ヵ年平均	130,702	225	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
24年見通し		127,000	230	-	-		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>葉菜類は関東産地と長野、また果菜類、土物類は西南暖地からの入荷が中心となる。産地背景が変わる時期であるが各産地とも冬期、春先の低温の影響で生育に遅れがあったが回復に向かっている。 入荷量、価格ともに前年並みの見込み。</p>							
だいこん	19年	8,038	76	76	75	青森 62%	
	20年	8,458	72	64	74	千葉 25%	
	21年	7,737	89	83	89	北海道 5%	
	22年	8,676	78	97	75	宮城 2%	
	23年	8,455	84	75	100	(愛知産比率 0%)	
	5ヵ年平均	8,273	80	79	82	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
24年見通し		8,050	95	110	80	95	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森と千葉からの入荷が中心となる。青森は主力のトンネルものが寒さで播き付けが遅れたことに加え生育遅れもある。千葉はシーズン終盤だが引き続き太物は少なく小ぶり傾向。 入荷量は前年をやや下回り、価格は5月からの高値基調もあり前年をかなり上回る見込み。</p>							
にんじん	19年	6,914	102	107	94	106	千葉 75%
	20年	6,262	218	236	204	211	埼玉 11%
	21年	6,396	129	129	132	125	茨城 5%
	22年	6,321	153	165	145	149	中国 3%
	23年	7,044	117	130	114	108	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	6,587	142	152	136	138	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
24年見通し		6,800	130	125	130	135	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>千葉からの入荷が中心となる。播種期及び生育期の低温でやや遅れ気味であったが気温の上昇とともに回復傾向にあり品質も良好。埼玉についても同様で生育はやや遅れ気味だが回復傾向。 入荷量は多かった前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み</p>							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうきさい	19年	2,500	98	109	113	72	長野 82%
	20年	2,330	76	82	76	72	茨城 16%
	21年	2,042	87	78	83	102	群馬 1%
	22年	2,142	74	83	71	68	
	23年	1,679	71	81	68	70	
ほうきさい	5カ年平均	2,139	82	88	84	77	前年及び本年の入荷量・価格の動き
ほうきさい	24年見通し	1,750	75	80	75	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は長野が中心。次いで茨城。長野は天候に恵まれず、生育遅れ。6月上旬から増加する見込み。これからの季節は、ほうきさい自体の入荷量が減少する。 入荷量、価格ともに前年をやや上回る見込み。</p>					
キャベツ	19年	3,980	94	128	81	73	愛知 43%
	20年	3,779	78	69	73	94	茨城 40%
	21年	3,518	81	62	81	107	長野 8%
	22年	4,458	72	81	65	71	
	23年	3,917	62	47	60	83	
キャベツ	5カ年平均	3,930	77	78	72	85	前年及び本年の入荷量・価格の動き
キャベツ	24年見通し	3,700	90	100	80	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知、茨城が中心。両県とも6月の中旬が出荷のピーク。それ以降は徐々に減少見込み。長野は低温で生育遅れ気味。群馬は低温回復しつつある。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ほうれんそう	19年	351	526	483	515	591	岐阜 78%
	20年	344	489	446	471	563	群馬 7%
	21年	294	540	477	632	520	長野 5%
	22年	310	508	522	510	491	愛知 4%
	23年	235	573	530	610	580	
ほうれんそう	5カ年平均	307	524	489	541	549	前年及び本年の入荷量・価格の動き
ほうれんそう	24年見通し	250	550	550	550	550	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は岐阜が中心。次いで長野、北海道。気温が低い産地が多く、その影響で生育が遅れている。5月下旬～6月上旬にピークが来る。6月中旬以降に順調に入荷する見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	19年	5,263	54	56	51	54	長野 45%
	20年	5,280	66	52	59	87	茨城 39%
	21年	6,378	58	62	57	55	群馬 15%
	22年	5,368	56	65	59	45	岩手 0%
	23年	5,856	55	47	57	60	(愛知産比率 -%)
さい	5カ年平均	5,629	58	56	57	60	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
い	24年見通し	5,600	65	70	65	60	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城が終盤を迎え、長野、群馬の高冷地もの の入荷が増加する。長野、群馬ともに定植後も 気温が低めに推移したことから前年より若干遅 れてのスタートとなる見込み。茨城の残量は少 なく早く切り上がる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は月前半を 中心に堅調に推移し、前年を大幅に上回る見込 み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は7月～12月にかけて増加傾向にあり、1月～3月にピークを迎え、その後減少傾向にあります。単価は7月～9月に上昇傾向にあり、10月～12月にピークを迎え、その後減少傾向にあります。</p>					
キヤベツ	19年	13,972	68	63	64	78	千葉 47%
	20年	14,767	67	60	63	80	茨城 24%
	21年	17,218	63	63	60	65	神奈川 9%
	22年	15,975	75	103	69	55	東京 6%
	23年	14,641	52	38	44	81	(愛知産比率 3%)
さい	5カ年平均	15,315	65	66	60	71	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ツ	24年見通し	14,500	70	75	70	65	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心。生育は、茨 城はGW期の降雨の影響で小玉傾向、千葉 は量、品質ともに回復傾向で潤沢な入荷が 見込まれる。 入荷量は前年並みで、価格は安かった 前年を大幅に上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は7月～11月にかけて増加傾向にあり、12月にピークを迎え、その後減少傾向にあります。単価は7月～11月に上昇傾向にあり、12月にピークを迎え、その後減少傾向にあります。</p>					
ほうれんそう	19年	1,626	352	323	320	423	群馬 33%
	20年	1,616	405	393	419	403	茨城 15%
	21年	1,680	403	394	401	416	栃木 15%
	22年	1,673	405	441	380	394	岩手 14%
	23年	1,365	431	430	435	429	(愛知産比率 0%)
さい	5カ年平均	1,592	398	395	390	412	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
そう	24年見通し	1,400	410	420	410	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地に加え岩手からの入荷が本格化 してくる。群馬は中山間地もの中心とな るが、ほぼ順調な生育で前年並の出荷が見 込まれる。岩手も生育遅れも回復傾向。 入荷量は前年並みで、価格は高かった前 年をやや下回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は7月～11月にかけて増加傾向にあり、12月にピークを迎え、その後減少傾向にあります。単価は7月～11月に上昇傾向にあり、12月にピークを迎え、その後減少傾向にあります。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	19年	795	381	390	406	349	愛知 38%
	20年	839	366	375	396	329	茨城 11%
	21年	768	443	494	434	401	大分 10%
	22年	901	403	450	389	373	中国 8%
	23年	726	373	429	365	354	
	5カ年平均	806	393	427	398	361	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	800	400	400	400	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知、茨城大分が中心。長ねぎは愛知が生育遅れ。6月には増加見込み。静岡は生産終了。また、鳥取、大分の春ねぎは終了。 入荷量、価格ともに前年をかなり上回る見込み。</p>					
レタ	19年	2,186	127	196	104	91	長野 99%
	20年	2,064	144	180	141	118	愛知 1%
	21年	1,580	171	201	184	139	三重 0%
	22年	1,824	126	145	131	106	兵庫 0%
	23年	1,708	141	128	134	192	
	5カ年平均	1,872	140	171	136	126	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,700	130	150	130	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は長野が中心。松本から北の生産地から出荷されているものは6月中~下旬にピークを迎える。兵庫産は、6月までに生産終了。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅう	19年	2,276	196	215	190	180	埼玉 29%
	20年	2,316	221	166	233	276	愛知 22%
	21年	1,780	233	254	222	223	長野 17%
	22年	1,876	202	211	212	175	群馬 15%
	23年	1,647	307	355	255	327	
	5カ年平均	1,979	228	233	221	234	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,700	270	250	250	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は埼玉、愛知、長野、群馬が中心。6月に愛知産は終了。春作の埼玉、長野、群馬は生育が良くないが、6月中~下旬に回復し、順調に入荷してくる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

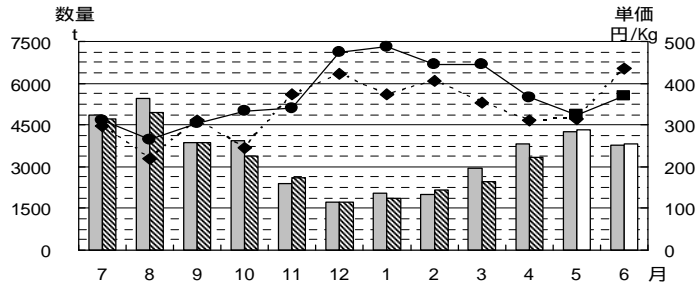
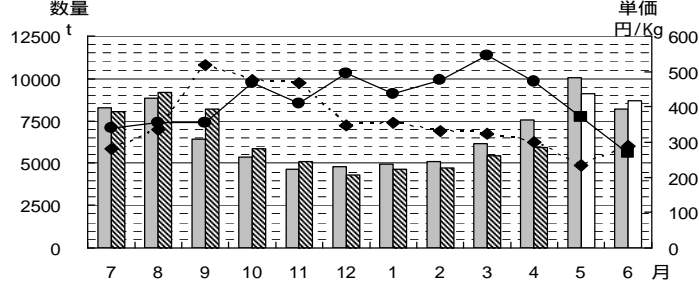
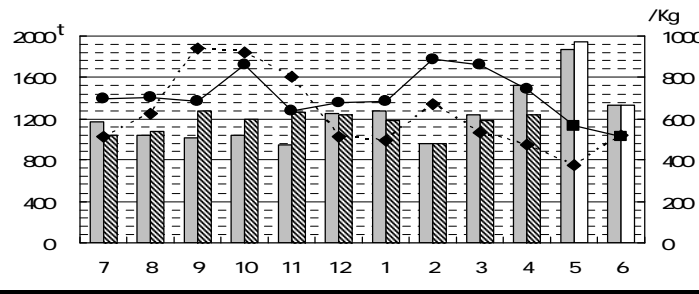
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ね	19年	4,367	256	249	262	258	茨城 64%
	20年	4,353	367	437	339	320	千葉 19%
	21年	4,270	359	383	327	370	中国 7%
	22年	4,210	333	383	317	297	埼玉 4%
	23年	4,625	270	320	247	241	(愛知産比率 -%)
	5カ年平均	4,365	316	354	298	296	
ぎ	24年見通し	4,600	320	320	320	320	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/kg		
		茨城、千葉からの入荷が中心となる。茨城の生育は低温の影響からやや遅れ気味であったが気温の上昇とともに回復傾向。千葉も同様で病気の発生も少なく品質良好。入荷量は前年並みで、価格は低迷した前年を大幅に上回る見込み。					
し た ス	19年	7,480	132	161	127	114	長野 71%
	20年	7,147	158	183	166	130	群馬 22%
	21年	8,159	118	130	120	104	茨城 3%
	22年	8,096	121	199	108	78	岩手 2%
	23年	7,671	133	162	126	116	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	7,711	132	167	129	108	
ぎ	24年見通し	7,700	139	130	130	130	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/kg		
		長野からの入荷が本格化する。長野は定植は例年よりも若干遅く、生育も低温の影響で遅れ傾向で推移しているものの回復傾向。群馬についても遅れも回復し順調で、潤沢な出荷が見込まれる。入荷量、価格ともに前年並みの見込み。					
き ゆ う り	19年	7,518	196	195	170	226	埼玉 34%
	20年	6,901	229	248	223	218	群馬 16%
	21年	7,485	210	222	224	182	福島 12%
	22年	7,774	222	272	168	221	茨城 10%
	23年	6,967	292	352	234	302	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	7,329	229	257	203	229	
ぎ	24年見通し	7,000	270	260	280	270	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/kg		
		埼玉、群馬、茨城に加え、福島からの入荷となる。関東産の加温タイプは早めに切り上がる見込み。無加温タイプは遅れは解消され平年並の出荷が見込まれる。入荷量は少なかった前年並みで、価格は前年をかなり下回るものの平年よりは高値となる見込み。					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な	19年	1,351	291	304	284	284	愛知 54%
	20年	1,415	237	236	245	228	熊本 25%
	21年	1,184	293	278	293	311	宮崎 11%
	22年	1,358	269	280	298	224	高知 5%
	23年	1,013	388	376	390	413	
す	5カ年平均	1,264	290	290	297	284	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,150	300	280	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知が中心。低温の影響を受け、愛知県産は各産地で生育不良の状態。出荷のピークはない見込み。熊本は低温の影響なく、出荷順調。品薄が解消され、価格は下がる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ト マ ト	19年	1,734	256	237	233	301	愛知 37%
	20年	1,879	214	205	212	223	熊本 23%
	21年	1,814	218	211	216	226	三重 16%
	22年	1,857	232	245	227	225	岐阜 10%
	23年	1,472	276	277	265	312	
ト	5カ年平均	1,751	237	233	229	255	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,600	260	280	250	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知、熊本が中心。春の産地がほぼ終了し、青森、岐阜、愛知から出荷が始まる。天候の回復により、順調な出荷が見込まれる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	19年	294	544	474	519	672	愛知 40%
	20年	376	462	426	450	511	熊本 35%
	21年	319	524	515	519	538	和歌山 10%
	22年	423	477	503	475	451	
	23年	375	559	525	558	619	
ト	5カ年平均	357	510	489	502	551	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	370	500	450	500	550	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知、熊本が中心。6月下旬には北海道が多く出荷する見込みだが、現在生育が遅れている。6月は愛知産は小玉傾向。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	19年	5,261	258	269	246	高知	31%
	20年	4,661	343	335	362	福岡	17%
	21年	4,875	305	326	251	群馬	17%
	22年	4,273	365	342	338	茨城	9%
	23年	3,672	424	419	465	(愛知産比率 0%)	
	5カ年平均	4,548	332	342	333	323	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	3,800	370	370	370		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知、福岡に関東産地が加わる。高知、福岡は生育終盤で、上旬に出荷のピークとなる。ほ場によっては病害が散見される。群馬については生育状態は悪くなく出荷量は今後の天候次第。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					
							
ト マ ト	19年	9,280	226	224	232	栃木	24%
	20年	8,249	248	254	249	茨城	15%
	21年	8,688	262	255	251	千葉	13%
	22年	9,081	266	253	218	愛知	11%
	23年	8,214	290	268	310	(愛知産比率 11%)	
	5カ年平均	8,702	258	278	250	251	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	8,700	270	270	270		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心で、本県からの入荷もある。栃木は、冬期の低温、日照不足で小玉果が多かったが、回復傾向で安定的な出荷が見込まれる。茨城、千葉も遅れがあったが、気温の上昇とともに回復傾向。本県産は潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み</p>					
							
ミ ニ ト マ ト	19年	1,225	441	433	463	愛知	25%
	20年	1,135	502	492	515	熊本	24%
	21年	1,321	450	449	449	千葉	16%
	22年	1,402	471	446	433	宮崎	7%
	23年	1,328	520	473	510	597	(愛知産比率 25%)
	5カ年平均	1,282	477	477	435	491	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	1,330	510	510	510		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、熊本が中心に、関東産地に加え東北産地からの入荷となる。各産地とも現況は順調な生育だが、今後の天候によっては出荷減少もある。気温次第で需要増となる。 入荷量は前年並みで、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	19年	718	330	436	288	268	茨城 65%
	20年	681	265	249	266	283	高知 23%
	21年	612	341	298	367	364	宮崎 10%
	22年	630	298	263	344	292	
	23年	553	385	468	393	374	(愛知産比率 0%)
マン	5カ年平均	639	321	341	328	313	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	560	340	360	360	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は茨城が中心。高知は促成栽培ものが残っている。鹿児島の出荷は5月で終了する。東北地方の生産地は成育が遅れているが、下旬には回復してくる見込み。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ばいしょ	19年	3,669	118	125	114	113	長崎 70%
	20年	3,219	80	81	77	85	静岡 13%
	21年	2,519	147	143	150	149	熊本 6%
	22年	2,702	160	153	167	163	
	23年	2,959	183	213	173	145	
いしょ	5カ年平均	3,013	135	141	133	128	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	3,000	140	140	140	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は長崎、静岡が中心。長崎は例年通りL中心の出荷。小玉の傾向はない。暑くなる前に出荷を終えるつもり。静岡はL中心で6月から増加の見込み。鹿児島の出荷は6月の上旬までの見込み。 入荷量は前年並みで、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	19年	4,936	62	61	61	65	愛知 71%
	20年	4,300	53	47	52	63	兵庫 26%
	21年	4,064	63	66	65	59	佐賀 1%
	22年	4,821	75	78	77	67	中国 1%
	23年	3,886	63	63	64	64	
ねぎ	5カ年平均	4,401	63	63	64	64	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	4,000	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知、兵庫が中心。愛知は6月が出荷のピーク。2Lの比率が下がり、前年より小玉傾向。兵庫は上旬にまずまずの入荷を見込む。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	19年	2,828	246	273	246	220	茨城 91%
	20年	2,288	366	357	409	335	宮崎 3%
	21年	2,366	307	331	330	253	高知 2%
	22年	2,342	333	427	362	239	岩手 2%
	23年	2,116	378	480	307	367	(愛知産比率 -%)
マン	5カ年平均	2,388	322	367	327	278	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	2,200	330	300	330	360	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>西南暖地が終了し、茨城からの入荷が中心となる。茨城はこれまで低温と天候不順の影響から出遅れ気味できており、遅れたものが当月にずれ込む見込み。岩手は平年並に順調に推移している。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値で推移した前年をかなり下回る見込み。</p>					
ばれい	19年	8,969	78	80	78	76	長崎 44%
	20年	7,374	147	148	145	147	千葉 13%
	21年	7,877	160	161	161	158	静岡 12%
	22年	8,517	198	211	194	186	茨城 11%
	23年	8,306	178	205	172	146	(愛知産比率 0%)
いしよ	5カ年平均	8,209	151	160	149	141	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	8,700	120	120	120	120	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>長崎や静岡からの入荷が中心。各産地ともに昨年に比べ生育環境は良好、関東産地の作付増もある。長崎は前年、多雨で出荷量が少なかったが本年は順調な出荷が見込まれる。 入荷量はやや前年を上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	19年	10,662	66	55	69	76	佐賀 48%
	20年	11,235	84	86	83	81	兵庫 11%
	21年	10,942	95	92	92	103	香川 11%
	22年	10,878	98	96	96	102	栃木 4%
	23年	11,472	70	63	71	77	(愛知産比率 2%)
ねぎ	5カ年平均	11,038	83	78	82	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	24年見通し	11,000	70	70	70	70	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>佐賀からの入荷が中心となる。佐賀は降雨による定植遅れに加え、定植後の乾燥・低温の影響で肥大が鈍い。香川についても低温干ばつの影響で遅れ気味であったが回復傾向。兵庫についても少なめ傾向。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。</p>					

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)		
			上旬	中旬	下旬			
果実計	19年	11,642	347	343	353	フィリピン	25%	
	20年	10,549	342	338	356	愛知	16%	
	21年	11,280	316	308	335	熊本	14%	
	22年	9,487	344	327	347	アメリカ(合)	10%	
	23年	9,486	334	323	339			
	5カ年平均	10,489	336	-	-			
	24年見通し	9,300	320	-	-	前年及び本年の入荷量・価格の動き		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	重油高の影響により、ハウスみかんは辞める農家が多い。アールスメロンも採算が厳しくなっている。重油高の影響で単価が上がり、果物の消費が落ちている。入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。							
その他メロン	19年	1,489	301	349	336	284	熊本	29%
	20年	1,386	296	350	312	281	茨城	29%
	21年	1,340	267	312	285	278	愛知	21%
	22年	1,558	237	253	255	266	メキシコ	16%
	23年	1,059	281	291	280	299		
	5カ年平均	1,366	276	311	294	281		
	24年見通し	1,000	310	310	310	前年及び本年の入荷量・価格の動き		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	産地は熊本、茨城、愛知が中心。全産地において作付けが減少、生育遅れ。6～7月も生育は良くない見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
すいか	19年	2,212	183	198	188	167	愛知	57%
	20年	2,383	154	179	155	140	熊本	30%
	21年	2,024	164	176	167	150	石川	6%
	22年	2,370	156	180	156	136	鳥取	5%
	23年	1,947	172	193	182	176		
	5カ年平均	2,187	165	185	169	153		
	24年見通し	2,000	170	170	170	前年及び本年の入荷量・価格の動き		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	産地は愛知、熊本が中心。熊本から愛知の順番に出荷が増えてくる。熊本は6月の入荷量は前年より増加の見込み。愛知は生育遅れ。作付け面積の減少に伴い、入荷量少ない見込み。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並みの見込み。							

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)		
			上旬	中旬	下旬			
果 実 計	19年	34,498	376	382	368	茨城	18%	
	20年	32,636	382	371	381	千葉	14%	
	21年	37,774	341	318	346	青森	13%	
	22年	31,851	373	362	383	フィリピン	13%	
	23年	31,506	354	320	358	(愛知産比率 1%)		
	5カ年平均	33,653	365	-	-	前年及び本年の		
	24年見通し	30,000	370	-	-	入荷量・価格の動き		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
すいか類、メロン類中心におうとう、ぶどう、ハウスみかん等が入荷する。おうとうは主力の山形(露地もの)の生育がやや遅れており、入荷量はかなり少ない見通し。ぶどうは厳冬期の低温で生育遅れの状況にあり、平年をかなり下回る。平年並みに回復するのは6月下旬。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。								
そ の 他 メ ロ ン	19年	5,545	355	408	360	307	茨城	82%
	20年	4,973	342	382	340	308	千葉	10%
	21年	6,804	274	281	274	265	熊本	6%
	22年	4,768	371	442	389	311	宮崎	0%
	23年	4,862	336	350	329	326	(愛知産比率 0%)	
	5カ年平均	5,390	331	370	335	295	前年及び本年の	
	24年見通し	4,500	360	380	355	350	入荷量・価格の動き	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
茨城中心の入荷。茨城の生育が低温の影響で遅れていたため、入荷量が少なく、高値が続いたが、6月に入ると順調な入荷になる。クインシーは6月中下旬、アンデスは6月上旬がピーク。後続産地の貴味メロンが7月にずれ込む。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。								
す い か	19年	11,642	170	195	172	155	千葉	42%
	20年	9,591	181	204	186	159	熊本	23%
	21年	10,217	162	147	166	178	茨城	20%
	22年	8,926	221	237	228	207	鳥取	6%
	23年	8,778	183	184	184	182	(愛知産比率 0%)	
	5カ年平均	9,831	182	192	186	175	前年及び本年の	
	24年見通し	8,350	190	191	191	189	入荷量・価格の動き	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
どの産地も4月上旬までの低温の影響で、7～10日の遅れ。千葉、鳥取は回復してきており、平年並みかやや下回る。また、出荷開始もやや遅め。茨城は生育遅延が影響し、大幅に下回見込み。熊本は平年よりも長く6月末まで出荷が続く。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。								

切花・鉢花の6月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月24日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	19年	2,850	35	
		20年	2,772	24	
		21年	2,416	43	
		22年	1,896	59	
		23年	1,956	45	
	5ヶ年平均	2,378	40		
24年見通し	2,050	45			
概要	<p>愛知、三重中心に入荷。昨年と同じく寒さの影響からやや遅れが見られる。特に高冷地は長野県産中心となるが5日程の遅れが見られる。色物からの出荷で白あたりは7月に入ってからの出荷となろう。愛知産では夏菊の優香が出荷はじまる。しかし、まだ品質はあまり良くない。今年は寒さがまだ残っているので神馬や精興の誠の日持ちが良いことから引き合いはまだ夏秋タイプのものと</p>				
小 ぎ	実績	19年	1,568	19	
		20年	1,577	18	
		21年	1,353	32	
		22年	912	36	
		23年	1,152	32	
	5ヶ年平均	1,312	26		
24年見通し	1,200	32			
概要	<p>入荷量徐々に増えてきている。しかし、4月からの遅れが見られることから沖縄の急激な減少は全体の入荷量に響く。地物や兵庫県、奈良県産も寒さの影響から丈の短い物や細い物が多く見受けられややボリューム不足が指摘されている。しかし、全体の入荷量はあまり多くないので動きはかなり良いと思う。</p>				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	19年	1,198	36	
		20年	1,099	37	
		21年	1,070	41	
		22年	1,047	38	
		23年	1,198	37	
	5ヶ年平均	1,123	38		
24年見通し	1,250	37			
概要	<p>愛知を中心に和歌山、長野から入荷。今年が母の日からピークが少し後ろにずれた分暖地物がまだまだ残っているが、長野産の本格的な出荷は中旬からのスタートで、スタンダード中心に少し谷間が発生すると思われる。</p>				
か す み 草	実績	19年	147	72	
		20年	161	71	
		21年	139	78	
		22年	134	67	
		23年	126	75	
	5ヶ年平均	141	73		
24年見通し	132	75			
概要	<p>長野、北海道、福島等高冷地産が入荷。暖地産も前半は残るが、数量は少なめ。業務中心の動きで、高冷地産は安定した価格で動きそう。</p>				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	19年	452	125	
		20年	457	128	
		21年	427	139	
		22年	337	154	
		23年	410	140	
	5ヶ年平均	417	136		
24年見通し	430	140			
概要	新潟、岐阜、埼玉、愛知、高地等から入荷。オリエンタル系は高冷地各産地より出荷始まる。中旬までは数量も少なめで、暖地の出荷も中旬までに終了しそう。入荷量は不安定で、価格は業務の動きで変動幅は大きいが中旬以降は入荷少なく、安定してくる。LA、鉄砲は少なめの入荷で価格安定。				
洋 ら ん	実績	19年	326	86	
		20年	347	78	
		21年	287	92	
		22年	321	81	
		23年	374	81	
	5ヶ年平均	331	83		
24年見通し	390	81			
概要	鹿児島、愛知、静岡、三重等と輸入物が入荷。時期的に減少傾向にある。気温が上がってくるに従い、品質による価格差が大きくなっていく。				
ば ら	実績	19年	1,137	45	
		20年	1,115	46	
		21年	1,107	50	
		22年	1,045	48	
		23年	954	53	
	5ヶ年平均	1,072	48		
24年見通し	1,000	53			
概要	愛知、三重、岐阜、和歌山から入荷。産地により冷房又は株休めの為剪定を行う産地もあり、高冷地の出荷も始まるが、日により増減がある。週末の日柄もいいため、婚礼や父の日需要で上物は期待できるが、下物の動きは重いと思われる。				
枝 も の	実績	19年	1,357	41	
		20年	1,220	43	
		21年	1,242	43	
		22年	1,458	36	
		23年	1,479	40	
	5ヶ年平均	1,351	40		
24年見通し	1,500	40			
概要	岐阜の山取りやアジサイ、アリアム等が中心になり、入荷。新芽も定まり、山取りや栽培物の出荷は順調に始まり、安定した価格が継続しそう。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	19年	23,238	1,058	
		20年	23,173	1,088	
		21年	25,243	997	
		22年	15,570	967	
		23年	19,878	982	
	5ヶ年平均		21,420	1,023	
	24年見通し		19,500	950	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。生産メインは4～6号が例年同様に多いが、ギフト用の7号～10号の寄せ植えの取扱量が増加か。 昨年6月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(97.9%)、2位三重県(1.2%)、3位滋賀県(0.5%)となっている。</p>				
フ ア レ ノ プ シ ス	実 績	19年	24,316	3,241	
		20年	25,642	3,106	
		21年	28,794	2,706	
		22年	23,846	2,654	
		23年	25,948	2,942	
	5ヶ年平均		25,709	2,925	
	24年見通し		26,500	2,900	
概要	<p>震災の影響は少なく、入荷量は順調に増加か。単価面では大輪系が生産回復の為、供給も安定と予想。ミニ、ミディー系は入荷減少か。 昨年6月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(54.4%)、2位山梨県(6.9%)、3位宮崎県(6.1%)となっている。</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	19年	17,066	147	
		20年	30,567	165	
		21年	38,145	202	
		22年	26,970	184	
		23年	28,771	155	
	5ヶ年平均		28,304	174	
	24年見通し		28,000	150	
概要	<p>入荷量は平年並みか。大輪種、復色系に人気が集中か。反面、レギュラー品種は厳しい。 昨年6月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位岐阜県(58.4%)、2位愛知県(26.3%)、3位山口県(6.9%)となっている。</p>				

単位：鉢、円/鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイドラ ン ジ ア	実績	19年	20,351	474	
		20年	23,263	424	
		21年	38,313	456	
		22年	45,729	392	
		23年	34,524	545	
	5ヶ年平均	32,436	455		
	24年見通し	34,300	500		
概要	<p>入荷量は昨年並みか。ブルー系の品種が多く5号を中心に入荷の見込み。低価格での取引で単価は落ち着くと思われる。6月からの出荷品種もあるので注意。プーリストを中心に秋色アジサイも目を引くと思われる。</p> <p>昨年6月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(72.1%)、2位栃木県(5.7%)、3位群馬県(5.7%)となっている。</p>				
スパ テイ フイ ラム	実績	19年	22,945	333	
		20年	20,913	250	
		21年	23,194	266	
		22年	23,770	235	
		23年	17,880	299	
	5ヶ年平均	21,740	276		
	24年見通し	17,500	290		
概要	<p>入荷量は昨年並みか。5号以上の規格は減少し、3号～4号中心の入荷を予想。単価面では安価だが安定か。</p> <p>昨年6月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位三重県(46.9%)、2位愛知県(44.6%)、3位岐阜県(7.9%)となっている。</p>				
ドラ セ ナ 類	実績	19年	54,090	675	
		20年	54,542	686	
		21年	58,131	562	
		22年	31,960	648	
		23年	40,127	649	
	5ヶ年平均	47,770	642		
	24年見通し	38,000	640		
概要	<p>入荷量は、燃料費の高騰や、昨年の沖縄の台風の影響等で生産減の為、減少か。入荷減になる反面、単価は多少安定か。</p> <p>昨年6月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(71.1%)、2位沖縄県(12.9%)、3位三重県(5.9%)となっている。</p>				

主要農林水産物の輸出入実績(2012年)

1 輸入実績

品名	3月						3月までの累計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	102,792	97.6	9,285,717	103.3	90	105.9	271,495	74	24,198,176	76	89	102.8
トマト	445	260.4	162,650	294.3	365	113.0	1,001	154	352,805	167	352	108.5
たまねぎ	35,414	85.8	1,248,605	57.3	35	66.0	94,179	59	3,093,883	39	33	65.7
にんにく	1,932	125.6	214,907	59.0	111	46.8	5,026	89	530,137	41	105	45.5
ねぎ	4,899	90.6	667,974	153.1	136	167.9	13,346	72	1,531,019	97	115	135.1
ブロッコリー	4,210	182.2	591,990	142.4	141	78.3	13,139	148	1,922,653	121	146	81.8
結球キャベツ	7,317	118.1	269,217	131.7	37	112.1	18,036	101	593,563	99	33	98.0
にんじん・かぶ	11,132	90.3	513,954	82.9	46	92.0	13,346	40	886,046	54	66	133.8
ごぼう	4,254	79.5	230,147	39.4	54	49.5	11,816	73	596,332	37	50	50.1
えんどう	391	145.2	172,518	228.7	442	157.9	952	121	357,810	161	376	132.7
アスパラガス	3,315	174.2	1,242,540	153.7	375	88.2	7,951	107	3,253,819	97	409	90.8
まつたけ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
しいたけ	633	126.8	175,768	139.9	278	110.3	1,854	76	667,560	107	360	140.6
かぼちゃ	19,118	85.6	1,214,513	89.2	64	104.9	58,387	79	3,529,674	79	60	99.3
果実(生鮮・乾燥)	184,149	103.0	18,936,153	107.6	103	105.1	457,633	75	46,378,145	78	101	103.0
バナナ	94,628	104.3	6,168,032	105.2	65	100.0	252,924	75	14,985,780	73	59	97.9
パイナップル	15,268	111.1	883,970	109.6	58	98.3	36,219	77	2,040,341	76	56	98.2
レモン	3,808	114.5	392,773	111.2	103	97.2	12,724	94	1,420,247	96	112	102.1
オレンジ	18,349	108.7	1,708,621	110.1	93	101.1	37,074	82	3,383,704	80	91	98.0
グレープフルーツ	24,615	84.7	2,318,924	88.8	94	104.4	57,126	70	5,311,163	71	93	100.6
メロン	2,948	106.1	378,809	123.8	128	116.4	5,049	47	633,674	54	126	116.0
ぶどう	2,995	155.2	529,908	152.3	177	98.3	4,797	99	1,208,571	133	252	134.2
キウイ	625	345.2	125,139	327.6	200	94.8	1,153	205	215,394	187	187	91.1
いちご	25	618.0	16,783	688.4	679	103.0	58	327	41,888	312	721	95.4
切花(生鮮・乾燥)	5,994	119.1	4,230,274	124.3	706	104.3	12,143	77	8,909,117	81	734	104.9
鳥獣肉類	135,783	90.0	61,359,585	90.6	452	99.3	437,896	76	189,512,767	75	433	98.9
牛肉(くず肉含む)	37,440	86.8	16,279,914	86.4	435	99.5	114,747	72	46,650,138	70	407	96.7
豚肉(くず肉含む)	65,933	97.8	34,616,442	98.0	525	100.2	198,111	78	103,936,029	78	525	100.2
鶏肉	25,875	79.0	6,393,598	74.9	247	94.3	106,398	78	27,554,676	80	259	101.6
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	152,147	127.1	81,899,187	121.0	538	95.2	442,090	88	239,249,861	86	541	98.2
まぐろ類	20,209	104.9	17,937,955	100.4	888	95.8	55,961	80	49,939,227	78	892	98.3
さば・さんま・あじ・いわし	9,747	152.0	1,827,163	175.6	187	115.4	34,781	114	6,173,576	121	177	106.3

2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	645	41.0	324,511	69.7	503	169.9	1,800	15	932,738	25	518	163.0
うんしゅうみかん	23	209.1	13,150	242.1	581	122.1	111	72	64,813	68	585	94.2
りんご	592	38.8	267,433	65.0	452	168.0	1,560	14	677,765	20	434	149.2
なし	3	732.9	1,402	617.6	503	84.3	9	40	3,962	44	463	111.5
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)	-	-	261,460	129.5	-	-	-	-	597,126	75	-	-
緑茶	195	119.6	463,052	146.2	2,376	122.1	494	74	1,086,061	88	2,198	118.1

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 (全国 平成22年 = 100)				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	22年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	23年11月	99.4	90.3	94.8	99.4	99.9
	12月	99.4	90.6	98.9	99.5	101.1
	24年1月	99.6	106.3	113.5	99.9	103.2
	2月	99.8	107.1	118.7	99.7	101.4
	3月	100.3	108.2	117.9	99.7	101.8
愛 知 県	22年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	23年11月	99.3	91.0	93.4	98.8	101.5
	12月	99.3	92.3	98.6	100.0	103.1
	24年1月	99.3	103.7	117.4	100.5	104.0
	2月	99.8	106.8	123.6	101.3	102.2
	3月	100.5	107.4	123.8	100.3	101.9

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	22年平均	95.7	98.0	100.7	91.5	98.5
	23年11月	98.1	97.9	93.6	135.9	98.1
	12月	102.3	99.3	109.9	135.2	99.4
	24年1月	109.2	99.9	131.8	140.2	97.5
	2月	111.7	99.4	137.4	143.5	97.9
	3月	114.8	97.4	145.2	130.8	97.7

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、 「コシ加」 以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
22年平均	2,236	158	172	603	419	313	142	314	203	510	615	201	447
23年11月	2,058	133	142	619	331	299	138	317	213	553	637	178	503
12月	2,053	118	128	565	401	286	113	356	224	687	665	183	447
24年1月	2,058	211	152	705	625	280	150	302	216	721	651	182	531
2月	2,066	235	183	653	686	293	166	312	209	740	655	186	546
3月	2,039	210	247	743	696	310	207	345	226	752	754	162	558
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1本	100g					
22年平均	604	312	382	143	254	682	603	162	166	326	223	752	479
23年11月	466	240	395	-	210	646	521	150	164	295	219	756	398
12月	466	291	400	176	219	732	532	151	167	322	224	733	409
24年1月	575	295	366	189	227	701	547	156	159	306	230	752	408
2月	645	293	381	195	217	821	536	161	168	322	231	763	399
3月	747	281	376	180	224	849	544	168	181	333	220	805	415

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



いいともあいち運動って知ってる？

県内の消費者と生産者が今まで以上に**いい友**関係になる

Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

= もっと愛知県産品を食べよう (利用しよう)

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート 468
平成24年6月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6421